

平成20年度国立大学図書館協会地区協会助成事業報告書（九州地区）

事業名

「資料保存セミナー：学術資料を後世に残すために」の開催

事業目的・趣旨

大学図書館にとって所蔵している学術的・歴史的に貴重な資料を長期に保存し活用していくことは重要な責務である。そのためには、図書館職員が資料保存のための知識や技術を習得している必要があるが、資料保存に関する研修、特に実習を伴う研修については、東京地区等で開催される場合が多く、地方においては研修機会がほとんどないのが実情である。

このため、九州地区において実習を伴う「資料保存セミナー」を開催し、講義、事例報告、実習をとおして、参加者が資料保存に関する基礎的な知識と技術を習得し、各大学における資料保存の実務に役立てることを目指すものである。

主担当大学

九州大学、長崎大学

実施概要

テーマ：「資料保存セミナー：学術資料を後世に残すために」

主催：九州地区国立大学図書館協会

共催：九州地区大学図書館協議会

日時：「資料保存セミナー1（講演・事例報告）」

平成20年12月17日（水） 13:00～17:20

「資料保存セミナー2（実習）」

平成20年12月18日（金） 9:30～13:00

場所：九州大学附属図書館（視聴覚ホール・会議室）

プログラム：（別添プログラム）参照

実施結果

「資料保存セミナー1（講演・事例報告）」

参加者：80名	内訳	国立大学図書館職員	53名
		公立大学図書館職員	2名
		私立大学図書館職員	12名
		公共図書館職員	7名
		教員・学生・その他	6名

「資料保存セミナー2（実習）」

参加者：20名	内訳	国立大学図書館職員	12名
		公立大学図書館職員	2名
		私立大学図書館職員	6名

実習補助者：5名（九州大学図書館職員5名、長崎大学図書館職員2名）

実施経費

248,380円（セミナー開催に係る講師旅費・謝金、実習補助者旅費）

実施内容

「資料保存セミナー1」の講演会では、資料保存研究者で元国立国会図書館副館長の安江明夫氏と書籍修復家の岡本幸治氏による講演と、九州大学附属図書館研究開発室員の栗山平氏による事例報告を行った。「保存マネジメントの考え方」と題した安江氏の講演では、フィレンツェ水害に始まる資料保存の歴史から最新の海外の動向までの紹介があった。岡本氏の講演「予防のための修理と保存」では、スライドを交えて同氏が手がけた書籍修復の実例の説明があった。また、栗山氏の報告では、九州大学附属図書館が数年間にわたる資料保存研修会において作成した「資料保存ガイドライン」の作成経緯及び内容の紹介があった。

「資料保存セミナー2」の実習では、講師の岡本氏の指導のもと、破れたページの補修や無線とじ修理などの図書館の現場においてすぐに役に立つ実習を行った。参加者20名は講師の説明つき実演を見学した後、講師及び実習補助者7名の指導により実際に作業を行った。

受講者アンケート(別添)のとおり、本事業は受講者から大きく評価された。特に、「資料保存セミナー2」の実習については、受講者が学んだ知識や技術をそれぞれの図書館において広めていくことで、大学図書館の資料保存活動を進めるための役割を果たしたと考えられる。



安江氏の講演(12/17)



岡本氏指導の実習(12/18)